



膳所 千香さん
国東高等学校 将棋部

膳所 千香さん（3年生）は、父和貴さんの影響で小学校3年生から将棋を始め、父と一緒に大分市で開かれる大会に出場していました。高校入学後、直ぐ将棋部に入り、将棋に興味のある3人の友達を勧誘し、4人で放課後に集まって対局して棋力を上げていきました。その結果、2年生からは4人とも全国大会に出場するようになりました。

千香さんは、「これまで4人で指し続けてきた時間は大切な宝物です。4人で臨む最後の全国大会では、自分の個人戦と皆の団体戦、どちらも決勝トーナメント進出を果たしたいです。そして、後輩達には、私達も先輩達から受け継いだ全国大会連続出場の記録を更新し続けてもらいたいです」と話していました。



左から藤目 歩海さん、藤原 史実さん、膳所 千香さん、藤目 未歩さん



本多ひで子さん
美容室プラットイン(安岐町塩屋)

本多 ひで子さんは、以前大分市内の美容室で働いていましたが、結婚を機に安岐町に戻りました。そして、結婚1年後の昭和62年、再び美容師として働くため、「美容室プラットイン」を開店しました。当時、安岐町には多くの美容室がありましたが、大分市内で培った技術を活かし、地元の皆さんに愛され利用していただけるようになりました。そして、今年4月から、息子が独立するために10年間勤めていた大分市の美容室を辞め、一緒に働くようになりました。

ひで子さんは、「たくさんのお客様のおかげで、美容室を30年続けることができました。私もまだまだ現役ですが、息子の持つ若い感覚と技術にはとても刺激を受けています。この若い力を国東市で活かせるように支えていきたいです」と話していました。



左から息子の星生来さんとひで子さん



吉武 勝利さん
株式会社インタフェース(安岐町下原)

吉武 勝利さんは、高校3年時に進路指導の先生に、開設して間もないが将来性のある企業として株式会社インタフェースを紹介されました。平成4年当時は、景気の良い時代で大手電子機器メーカーの就職先も多々ありましたが、地元で立地する企業を自分の力でさらに大きくしたいと思い就職しました。以来、産業用コンピューターなどの製造に携わる仕事を真摯に続けてきました。

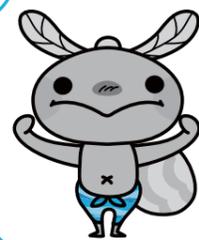
勝利さんは、「日々目標を持って働くうちに、あっという間に25年という月日が経ちました。入社当時の目標は、まだ達成できたとは言えませんが、会社を支えているという実感は持つことができます。今後は、



地元の企業を支える充実感を伝え、入社当時の目標と一緒に達成してくれる地元の若者を育成していきたい」と話していました。



製造現場の皆さん



各分野で光を放っている 人にスポットをあてる

国東の輝きひと Vol.4

江本 政樹さんは、漁師の父 英樹さんに憧れて、中学校2年生からタコ壺漁の手伝いをしていました。昨年3月に高校を卒業して、父や祖父母と一緒に漁に出るようになりましたが、これまでの経験から、直ぐ戦力になれると思っていました。ところが、本格的な仕事となると役割が増え、覚えることも多くて、作業の流れを止めないことが精一杯の状況でした。しかし、タコが大漁のときは家族で喜びを分かち合え、それを励みに頑張っています。

政樹さんは、「漁師は、悪天候の日以外は毎日仕事で大変な部分もありますが、大好きな海にいつも接してもらえるので、自分の天職だと感じています。ずっと



続けていくためには漁をする仲間が必要です。同世代の人達に漁師の魅力を感じてもらえるようにアピールしていきたいです」と話していました。



江本 政樹さん
(国見町竹田津)



左から祖父の江本 正直さん、政樹さん、父の英樹さん、祖母の志津子さん